

2020年度
第2回 理事会議事録

2020年 9月 29日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2020年度 第2回理事会議事録

1. 日 時 2020年 9月 29日 (火) 13:10~15:00
2. 場 所 本議場 = 全国鐵構工業協会 第1会議室
(本議場に出席しない者はオンラインにて参加)
3. 構 成 員 16名
4. 出席構成員 15名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 議案の審議
第1号議案 技術研究開発助成対象案件<全構協実施型>承認の件
 - (6) 報告事項
 - 1) 鉄建協主催のゼネコン等との意見交換会実施報告
 - 2) 新型コロナウイルス影響調査 (第3回) 結果報告
 - 3) 委員会報告
 - ①運営委員会
 - ②技術委員会
 - ③事業継続計画検討委員会
 - ④品質管理委員会
 - ⑤IoT等システム環境整備検討委員会
 - 4) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告
 - 5) NDI 実技試験対策講習会スケジュールの報告
 - 6) 技術研究開発助成案件 (H31年度分) の成果報告
 - (7) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (8) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の辰巳専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

辰巳専務理事より、理事総数 16 名のうち議場への出席者 7 名、オンラインでの出席者 8 名で出席者合計 15 名、欠席者は神崎理事 1 名であり、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされている旨、報告された。

(3) 会長挨拶

米森会長より「本日は初めてのウェブ会議であり、多少の不都合は生じるかもしれませんがよろしくお願ひします。新型コロナウイルスの影響が仕事の面でも現れつつあるが、なんとか乗切っていきたい。

協会活動を止めるわけにはいかないの、会議もこのような形で行うことで活動を続けていきますのでよろしくお願ひします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

辰巳専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 議案の審議

第 1 号議案： 技術研究開発助成対象案件〈全構協実施型〉承認の件

技術研究開発助成対象候補〈全構協実施型〉として兵庫県鉄工建設業協同組合より提案された「半自動 CO₂ アーク溶接によるロールコラム・通しダイアフラムの適切な溶接施工法」に関し、2020 年度第 1 回理事会(7 月 9 日開催)において、実施計画の策定、予算編成等の作業を行うことが承認されたことを受けて、技術委員会・井原委員長、同委員会/溶接施工WG・上柿リーダー及び高野技術部長が、本案件の提案者である兵庫県鉄工建設業協同組合並びに指導・協力者である神戸大学鋼構造研究室と打合せのうえ作成した実施計画案及び予算案が、議案書[理 20-2-議 1](p2-7)にそって高野技術部長より説明された。

本議案に対する意見・質問等はなく、同案件を助成対象とすることが承認された。

(6) 報告事項

1) 鉄建協主催のゼネコン等との意見交換会実施報告

新型コロナ禍のため、例年実施している当協会と鉄建協の共同陳情に代えて実施された、鉄建協主催の「JSCA 及びゼネコンとの意見交換会」にオブザーバーとして参加した状況が、議案書[理 20-2-報 1](p9-13)にそって辰巳専務理事より報告された。

2) 新型コロナウイルス影響調査(第 3 回)結果報告

8 月下旬に実施した新型コロナウイルス影響調査(第 3 回)の集計結果について、建方遅延、新規引合の減少、一部の構成員での手持ち工事量の減少、稼働率

の低下等がみられるものの、全体としては1回目、2回目の調査結果から大きな変化はみられず、本調査で見える限りでは深刻な影響は現れていないように見受けられることが、議案書[理 20-2-報 2] (p15-18)にそって辰巳専務理事より報告された。

引き続き米森会長より、今後予想される市場環境の悪化に備えた取組みに関し、以下の指示があった。

- ・鉄骨業界は、現時点では新型コロナウイルスの深刻な影響は現れていないようであるが、商社等関係者からの情報ではゼネコンの指値の下落がみられるなど、今後、市場環境は厳しい状況に陥ることが予想され、そのような環境の中でも受注価格の下落は何としても避けなければならない。
- ・そのためには、引合い時点で原価計算を行い、これを上回る見積金額を提示しなければならないにもかかわらず、原価計算を行わず損得も分からないままゼネコンの指値で受注してしまうファブが、いまだに存在するようだ。
- ・そこで、業界内ファブの、原価管理の実施状況を緊急に調査したうえで、原価管理の完全実施に向けた施策を検討し実行したい。
- ・アンケート調査は運営委員会が実施することとし、10月7日の委員会開催時に実施要領を協議して早急に実施し、その結果をみたうえで11月19日の理事会で必要な施策について協議することとしたい。

3) 委員会報告

①運営委員会

7月16日に開催された運営委員会の概要について、平井総務部長より口頭で以下のとおり報告された。

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、出席者は大竹委員長ほか3名であった。
- ・今年度の取組みテーマが未定のため、昨年度までの活動内容等について事務局より説明し、確認のみ行った。
- ・今回は、先ほどの米森会長の説明にもあったとおり、10月7日に全員オンライン参加で開催し、原価管理の実施状況に関するアンケート調査の実施要領について検討する予定である。

2019年度に前メンバーで作成した自習用教育教材(①「決算書の読み方」<講師:神崎・協同組合大分県鉄構工業会-理事長> ②「決算書の読み方・活かし方~理解から応用へ~」<講師:足立・同-副理事長>)について、編集が完了したことが前年度委員長を務めた大島副会長より報告され、その一部が画像で紹介された。また、今後DVD版を作成し、11月中を目処に各県組合経由構成員に配布する予定であることが伝えられた。

②技術委員会

8月17日に開催された技術委員会の議事録が、議案書[理 20-2-報 3] (p19-22)により示され、このうち「溶接ヒューム<マンガン>規制への対応」について、

議案書[理 20-2-報 3] (p23-31)にそって高野技術部長より説明された。

説明の要点は以下のとおり。

- ・規制は労働安全衛生関係法令の改正により行われ、その内容は議案書 (p24～) のとおりで、開始時期(法令の施行・適用)は、2021 年 4 月 1 日である。ただし、一部については経過措置がある。
- ・規制にともなって鉄骨製作工場に義務付けられる主な事項は、議案書 (p23) に記載の 5 項目である。
- ・この 5 項目のうち、事業所ごとに選任が義務付けられる「特定化学物質作業主任者」に必要な「特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任技能講習」の修了を支援するため、受講費用(約 5,000 円/人・回)については、各構成員 1 名分を全構協が負担することとし、必要額を 2020 年度予算に計上することが 9 月 16 日に開催された三役会で決まった。
- ・その他の支援策についても、今後技術委員会で検討する予定である。

③事業継続計画検討委員会

7 月 10 日に開催された事業継続計画検討委員会の概要について、事業継続が困難となる状況には複数の類型が考えられるが、・災害 ・不況 ・後継者不在 の 3 類型について今後検討することを決めたことなどが、永井委員長より報告された。

④品質管理委員会

7 月 10 日に開催された品質管理委員会の概要について、今後の検討の視点として以下の三点とすることを決めたことなどが、山本委員長より報告された。

- ①品質に係る習慣の見直し・改善提案
- ②工場性能評価制度に係る問題点の整理と改善提案
- ③次世代型品質管理方法の提案

⑤IoT 等システム環境整備検討委員会

7 月 10 日に開催された IoT 等システム環境整備検討委員会の概要について、今後の進め方として、製作工程・事業全体の中からデジタル技術の活用により作業改善できそうな箇所を拾い出し、それらについて費用や難易度と効果のバランスを考慮しながら優先度を付けたうえで、三役会、理事会に報告し、実際に取組むべき項目の判断を仰ぐことを決めたことなどが、大島委員長より報告された。

4) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

法人法第 91 条第 2 項及び定款第 24 条第 6 項に基づく、代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について、議案書[理 20-2-報 4] (p35)にそって辰巳専務理事から報告された。

本報告に対し、9 月 2 日の福岡市における「建築鉄骨超音波検査技術者 更新

講習会」開催に際し、新型コロナウイルス感染防止対策 その他の事項について 運営状況の視察を米森会長が実施したことについて記載されていない旨指摘があり、報告資料を修正することとした。(即日修正版が作成され、全出席者に配布された)

5) ND I 実技試験対策講習会スケジュールの報告

今年度の重点事業として位置付け、費用の大部分を当協会で負担して実施しているND I-U T<レベル 1>試験対策講習会の実技講習のスケジュールが、議案書[理 20-2-報 5]-[1] (p36)により高野技術部長から報告された。

6) 技術研究開発助成案件(H31 年度分)成果の報告

平成 31 年度鉄骨技術研究開発助成対象案件の成果報告書が、議案書[理 20-2-報 5]-[2] (別冊)により高野技術部長から紹介された。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2020 年 9 月 15 日時点の構成員数は 2,214 社で、前回報告時より 6 社増加したこと等が、議案書[理 20-2-他 1] (p38-42)により事務局から報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2020 年 7 月の鉄骨推計需要は 35.6 万トン (前年同月比 26.1%減) であることが、議案書[理 20-2-他 2] (p43)により事務局から報告された。

3) 主要会議日程

今後の主要会議等について、次回理事会(11 月 19 日開催予定)は東京において実開催し、会議終了後、会食を行うこと、2021 年 1 月 15 日予定の新年賀詞交歓会の開催可否については検討中であることなどが、議案書[理 20-2-他 3] (p44)により確認された。

4) 支部報告

[北海道]

- ・新型コロナウイルスの影響で、役員会以外の大きな行事は実施できていない。
- ・手持工事量は、工期が長い市役所建替え工事が発注された旭川地区以外は、2~数か月程度で、ファブにより大きなバラツキがある。
- ・稼働率は、90~100%と目先は忙しいが、11 月乃至 12 月以降急激な低下が見込まれる。
- ・新規の引合が少なく先々不安視されている。
- ・価格はかろうじて維持しているが、地方部で安値受注がはじまっているとの情報がある。
- ・新型コロナウイルスの影響で、工事遅延の増加、宿泊施設の新築延期などがみられる。

[東北]

〔通信状態が悪いため、報告は見送られた〕

〔関東〕

- ・手持工事量、稼働率ともにファブごとのバラツキが大きくなっている。1年以上の仕事を確保しているファブもある。
- ・引合は減少傾向で、価格も下落の兆候が出ている。先行きが不安視されており価格低下を煽る心理的要素になっている。中国での粗鋼生産回復など世界的には景気好転の動きもあるので、国内の目先のことにとらわれることなく先を見つめて価格維持に努めるよう支部内でも指導強化している。
- ・10月30・31日、11月10・11日に検査技術者の学科講習を開講予定で、例年埼玉県で実施しているが、今回は感染予防のため受講生同士の間隔を確保できる群馬県内に新設されたコンベンションホールを利用して行うこととした。
- ・10月15日には、久しぶりに支部会を開催し、併せて全構協三役との意見交換会を実施する予定で、今回は感染リスクが大きい東京を避けて高崎市内で開催することとした。

〔北陸〕

- ・10月19日に支部会及び全構協三役との意見交換会を実施する予定である。
- ・新型コロナウイルスの影響で組合活動は抑えてきたが、今後は、感染対策を行いながら、賛助会員との交流会、現場見学会等を行う予定である。
- ・手持工事量は、バラツキが大きく、Mグレード以下では年明け以降の仕事がないなど厳しい状況である。
- ・ゼネコンも仕事が減少し受注競争の激化にともない価格低下の様子も窺える。その皺寄せがファブへの発注価格に及ぶことを懸念している。
- ・引合物件数も減少しており価格低下の懸念があるが、なんとか維持するよう努めている。

〔中部〕

- ・7月31日に支部会を開催した。10月5日に全構協三役との意見交換会を実施する予定である。
- ・手持工事量、稼働率、新規引合ともに低下傾向で、グレードごと、ファブごとのバラツキが大きくなっている。
- ・このような状況にともない、価格低下の兆候もみられることから、原価管理の徹底、情報交換の緊密化に努めている。

〔近畿〕

- ・前回の理事会以降、支部会を開催していない。
- ・手持工事量は、7、8月時点で、Hグレードで5、6～10ヵ月、Mグレードで2、3～5、6ヵ月、R・Jで1～3ヵ月であったが、現時点の体感としてはこれより悪化している。
- ・稼働率は60、70～100%、引合物件数はやや少ない。
- ・先行きの見通しについて、Hグレードは手持工事量が多いこともあり余裕があるが、R・Jは相当厳しい見方をしている。
- ・価格維持に対する意識は高く、稼働率が低下しているファブでも焦ることなく低価格物件に飛びつくような姿勢はみられない。

- ・ただ、特約店・商社でゼネコンの安値の指値に応じているとの情報が複数の県から出ている。
- ・新型コロナウイルスの影響で組合活動は抑えてきたが、11月に近畿整備局との懇談会、全構協三役との意見交換会、近畿支部会、12月には商社との交流会を開催する予定である。

〔中国〕

- ・前回の理事会以降支部会は開催していない。次回支部会開催日は10月6日で、同日全構協三役との意見交換会も行う予定である。
- ・手持工事量は、Hグレードを除き、年内分のみで、引合物件数も少なく先行きの不安大である。
- ・疑心暗鬼にならないようファブ間の情報交換を密に行うとともに、安値受注に走らないよう声を掛け合っている。また、相互に仕事を融通し合うことで山谷を埋める努力をしている。

〔四国〕

- ・10月20日に松山市で支部会及び全構協三役との意見交換会を開催する予定である。
- ・手持工事量、引合物件数ともに極端に少なくなっている。四国のほとんどのファブの営業対象は四国内物件であったが、他地区物件も受注しないとやっていけないとの声も聞かれる。
- ・四国経済は1.5～2%程度で、もともと小さい経済圏であることに加えコロナ禍のためにゼネコンも仕事が無くなって苦しんでいる。
- ・このような環境であるので、価格も低下傾向である。

〔九国〕（神崎理事が欠席のため、代わりに永井副会長より報告された）

- ・8月26日にオンラインで支部会を開催した。次回は10月21日に開催予定である。
- ・手持工事量、稼働率、引合物件数とも、他支部からの報告と同様であり、また、グレード間、ファブ間で格差が広がっている。
- ・先々の計画物件はあるが、予定通りに発注されるか否か不明である。
- ・価格は、地場特約店が先行する形で安値に傾いているとの情報があり、これが蔓延することがないように注意している。

以上を受け、米森会長が以下のとおり総括された。

- ・以前からオリンピック終了までは需要は減少すると指摘されていたが、そのおりの状況になっている。
- ・大型物件は年明けから発注がはじまるようであるが、中小物件は少ないようだ。物件数が減少すると需要全体が減少するよう感じられて焦りが生じるようだが、大型物件が出てくれば、件数は減っていても重量では一定レベル以上の需要量が確保されるので、焦らずに秩序を保っていただきたい。
- ・原価管理など、不況に備えてこれまで学んできたことを実行して、バブル経済崩壊後やリーマンショック後に経験した苦しい思いを繰り返さないよう、皆で協力して乗り切りたいのでよろしくお願ひしたい。

(8)閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

<u>役 職</u>	<u>氏 名</u>	<u>出席形態</u>
会 長	米 森 昭 夫	議 場
副 会 長	永 井 毅	議 場
〃	大 島 嗣 雄	議 場
〃	山 本 泰 徳	議 場
専務理事	辰 巳 功	議 場
常務理事	大 橋 利 勝	議 場
理 事	佐 藤 正 記	オンライン
〃	渡 辺 勝	オンライン
〃	大 竹 良 明	オンライン
〃	寺 田 健 信	オンライン
〃	多和田 桂 太郎	オンライン
〃	出 雲 津 芳	オンライン
〃	福 田 秀 章	オンライン
〃	井 原 常 裕	オンライン
〃	齊 藤 眞	議 場
監 事	村 上 眞 樹	議 場
〃	野 田 博 文	オンライン
〃	高 橋 伸 和	オンライン

理事総数 16名 うち出席者 15名 [欠席： 神崎 隆一]

監事総数 3名 うち出席者 3名